

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

5月、田んぼに早苗を植える月という意味の「早苗月」が詰まって「早月」となったという説が有力で農作業も本格的になる時期だ。急に暑くなるこ

の時期は、昔から病気にかかりやすく、亡くなる人が多かったそうだ。このため5月を「毒月」と呼び、厄除け・毒除けをする意味で菖蒲やヨモギの葉を門に刺し、薬用酒や肉入りの粽を飲食し健康を願う端午の節句が生まれたと故事の事典にある。

俳句の季語にも「若葉寒」や「若葉冷」があるから、この時期の寒暖差の大きさに注意が必要だ。気象学者の倉嶋厚さんは1年を1日にたとえると12月22日の冬至は真夜中の午前零時、3月20日の春分は正午で9月23日の

秋分は午前6時。したがって5月は「午前十時の季節」と書いている。東京新聞のコラム筆洗さんは、五月を「日はすでに高く、人々の活動は始まっているが、まだ昼食前、期待に満ちた長い午後も残されている」。あ

わて者も五月かどうろたえるが、そうか、また「昼食前」。もう五月「まだ五月」ではなく五月は「やっと」「ようやく」の気分だと記述。この時期の里は、桜の開花と野山の樹木も日に日に緑の色を濃くし自然を一緒に楽しむ

五月は「午前十時の季節」

る事ができる。適度な雨が降り、風が吹くが、降りすぎても困る。吹きすぎても困る。だから雨は10日に一度、風は5日に一度。それによって作物は病害虫から守られ、豊かな実りが期待できる。通学路が子どもに話しかける。道の景色はいつも同じに見えて、毎日どこか違っている。「きょうのきみもきのうのきみとまいにち どこかちがっている」心豊かな日々を送った子供達が、大人になり毎日繰り返している。心豊かな日々を送った子供達が、大人になり毎日繰り返している。心豊かな日々を送った子供達が、大人になり毎日繰り返している。

由起さんの絵本「学校はうたう」。机に椅子、靴箱、チャイムと、学校で子どもたちは物や音に囲まれている。もしそれがしゃべり出したらと発想「きょうのきみに」と題する。通学路が子どもに話しかける。道の景色はいつも同じに見えて、毎日どこか違っている。「きょうのきみもきのうのきみとまいにち どこかちがっている」心豊かな日々を送った子供達が、大人になり毎日繰り返している。心豊かな日々を送った子供達が、大人になり毎日繰り返している。



映画館全体がコナン一色に。信州が主舞台のアニメ映画「コナン 雙眼の残像」の公開で信州が注目されている。

社会。精神科医の斎藤茂太さんのエッセー「豆腐の如く」のように、軟らかいが締まりのある豆腐のようにス
トレス社会を生き抜くコツを身に付けたいものだ。
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)